

第3講 対象者の選びかた

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 対象者の選定

1 今回の課題

この授業のレポートを作成するための面接調査について、どのような対象者を、どのようにして、何人集めればよいか考える。実際のスケジュールや、自分がどの程度の労力を割けるかを考慮して、具体的に考えること。

2 対象者の選定

「無作為抽出」(random sampling)……対象となる「母集団」(population)のなかのすべての個体が同じ確率で選ばれる。面接などの質的 (qualitative) 調査では無作為抽出はあまり使わないが、基準として意識しておく必要はある。

実際には……次の条件を考慮して、対象者を決める：

- 調査可能な人数 (時間と労力の制約)
- 集めることのできる集団あるいはネットワーク
- 分析の鍵となる属性など (いくつかのグループに分けて、それぞれ複数の対象者を確保)

3 対象者との接触とその準備

- 調査名の決定と、調査趣旨を説明する文章の作成
- 対象者との接触 (メールなどの定型文をつくっておくとよい)
- 簡単な内容について事前に情報を集める場合がある
- 当日説明して承諾を得るための「面接承諾書」を (必要なら) つくっておく (下記参照)。この授業についても説明できるよう、『講義概要』などを準備しておくこと。

4 各自の調査の進めかたについて

- 教員との面談で OK が出たら実施してよい
- 一人目のトランスクリプトができれば教員に見せて、内容について相談すること

文献

鈴木淳子 (2002) 『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版。

面接承諾書の文例

【調査名】

東北大学文学部〇年生の □□□□□ と申します。今年度の「現代日本学演習 IV」(東北大学文学部田中重人教授担当)の授業の課題で、面接調査をおこなっております。調査のテーマは「××××××」というもので、〇〇の人を対象として、私1人で調査します。

この面接への参加は自由意志によるものです。いったん面接を始めたあとでも、面接途中で中止を求めることができます。また、答えたくない質問に対しては、答えなくてもかまいません。

調査の内容は、個人名や所属がわからない形で書き起こし、分析結果を期末レポートとして提出します。また、授業の際に、書き起こした内容を他の受講者とともに検討することがあります。面接の際の筆記記録、録音データは私が責任をもって厳重に保管し、レポート提出後に破棄します。レポートの執筆にあたっては、あなたおよび関係者のプライバシーが侵害されないよう最大限の注意を払い、個人が特定できないかたちで結果を記載します。書き起こし記録やレポートをご覧になりたい場合は、ご請求くだされば、お見せします。

面接者： _____

所属：東北大学文学部〇〇学専修（〇年生）

連絡先：(電話番号、Eメールアドレスなど)

以下の各項目について、同意いただける場合は、チェックをお願いいたします。

- 面接内容を録音することに同意します
- 面接内容についての個人情報を匿名化した書き起こし記録について、「現代日本学演習 IV」授業中に、教員および他の受講者とともに検討することに同意します
- 分析結果を「現代日本学演習 IV」レポートとして提出することに同意します

ご意見やご要望がおありでしたら、自由に記入してください

【スペースを設ける】

以上、ご確認およびご回答いただけましたら、お名前と日付をご記入ください

氏名： _____

日付： 年 月 日

鈴木 (2002, p. 78-79) など参考にして、適宜作成すること。当日、2部を対象者に手渡し、署名した1部を返してもらって保管する。(オンラインでの調査の場合は、やりかたを工夫すること)